

夏は暑過ぎて9月は台風が多発し、登山の気分になれずついに10月の秋山の季節となってしまった。行き先を思案していたところ、山岳誌の記事で「北陸新幹線 始発に乗れば山荘から剣・立山の夕景」という見出しが目に入った。これが表題になったプランなのだが、2泊3日ののんびりした小屋泊の山行ならルートに多少問題があるが何とかなるかと決めた。

従来は新宿～松本から北アルプスの長野側からのアクセスの発想であったが、確かに北陸新幹線なら長野からのアクセスもあると気が付いた。

このプランのメリットはご存じの八方尾根のリフトに乗って標高1,800mまで登り、標高差1,000m弱で山荘に達する。帰路は標高差1,000mを遠見尾根から下り、1,500mのアルプス平からやはりゴンドラで下山できること。大変に高齢者には優しいコースなのだ。しかしながら最大の難点は、後立山連峰に特有の瘠せ尾根と、岩場のクサリ場が続くことである。最近特に左眼が黄斑変性とかで視力が悪化したので、バランスが悪く階段の下りでは苦勞している。個人的にはこの点が大変に気がかりであった。

還暦過ぎて登山を再開したが、相手が見つからず常に単独行となってしまう。身内からはその危険性を指摘されており、自覚はしているのだが簡単に相手がおらず今回も一人の行動となってしまった。

山荘を確認すると今年の営業は10月14日までで、予約は不要とのこと。天候の具合で連休前の10日あたりを出発日と予定したが、急に台風19号が発生してしまった。急遽8日からと変更したが、この日は長野地区が悪天候の予報であったが、日時の余裕なく実行することにした。結果は久しぶりに風雨のなかでの登山となってしまった。

八方尾根からの登りは緩やかで何も問題はなかったが、視界ゼロのなかを黙々とあるいた。登山口から女性のパーティと相前後して歩いたが、この連中とは不思議と白馬駅まで一緒になった。唐松山荘は新しいのだが、食事はあまり良くなかった。登山者はそれほど多くなく、食事中は山自慢したがる中年の男たちよりも、会話して楽しい

登る途中で一緒になった女性たちに加わった。

日本人ではないので尋ねると香港からきたとか。久しぶりに英会話を楽しんだ。どのようにこの山旅を企画したのかと聞いたら、インターネットだそうだ。案内人もなく本格的な登山を実行するなど、日本語がほとんど出来ないのに達者なものだ。日本の山が好きで、何度も富士山とか北アルプスに登ったとか。こちらは以前にマレーシアのキナバル山に登ったときは、ツアー専門の会社に高額な料金を払っているのに。翌日も唐松山頂で一緒になったので記念撮影をした。剣から立山がすごく良く見えた。



〔唐松岳山頂と後方は剣山〕

唐松岳頂上山荘を快晴だが水たまりが氷り、風も強く冬の装備でスタートした。夜は嵐で虎落笛のような風の音を聞きながら、牛首と称する岩場の下りで苦勞するだろうなと思案しつつ寝つきが悪かった。単独行で前後に人影もなく、滑落したら、全く行方不明。搜索のしようもなく生命保険も降りようもないなどと空想していた。

下りは予想通り長いクサリ場に苦勞した。3点支持でと称するが、実体は四つん這いで移動する。



〔お目当ての五竜岳〕

見つとも無いが確実に且つ安全に時間をかけてコースタイムの倍近い4時間もかかって五竜山荘に到着した。昼食休憩後に五竜岳を往復するが、こちらもコースタイムの倍近く時間がかかった。

山荘の食事はカレーライスで美味であった。またもや香港のお嬢さんたちと一緒に談笑した。

三日目の朝は宣伝文句では紅葉のプロムナードだそうだが、遠見尾根に下りきるまでの標高差300mはやはりクサリ場でウンザリした。この日は冬から一変して夏日になり、途中で半そでに着替えた。尾根に入ったらやはりストックが便利で、ザックに収納出来なく持参しなかったことを後悔した。やはり小屋泊まりでも大きめのザックのほうが良かった。

途中の尾根から鹿島槍の雪渓が氷河に認定され、「カクネ里氷河」と称する所が良く見えた。



〔五竜岳頂上にて 後方は唐松岳・白馬岳〕

【 行動記録 】

〔10月8日〕 長野駅前東口の八方方面行きのバス（8:20）に乗り八方バス停下車。徒歩約20分でゴンドラリフトアダムスからリフト～リフトを乗り継ぎ八方池山荘。立派な水洗トイレで用件を処理して風雨だが11時登山開始。途中のケレンや八方池を通過し、雨中で昼食を摂り3時半に唐松山荘に到着。最後の尾根で風雨強く危なかった。全身にケイレンの予兆発生。夜間に低気圧通過した。

〔10月9日〕 昨夜の嵐がウソのような快晴。気温はマイナスで霧氷の世界、冬装備で唐松岳を往復。朝食の後に8時いよいよクサリ場の連続する牛首の下り。絶対に滑落しないように3点支持で下り登りを繰り返して最低鞍部に10時に辿り着く。30分の食事休憩をして12時過ぎに五竜山荘に到

着。2回目の昼食を摂り五竜岳を3時間半もかけて往復。

〔10月10日〕 快晴で風弱く気温上昇。7時に下山開始したが、またクサリ場の連続でうんざり。五竜から鹿島槍の稜線の眺望と紅葉が絶佳。12時に小遠見山に到着し昼食。白馬岳などの眺望良く昼食後尾根を下山し、ゴンドラ（白馬五竜テレキャビン）でとおみ駅着。近くのエスカルプラザという施設から携帯でタクシーを呼び白馬駅に。ここで15:55の長野行きに乗り17時に長野駅に到着。



〔遠見尾根から鹿島槍の氷河 〕

この山旅を総括すると、台風の直前で初日は悪天候であったが、その後は快晴で秋の登山を満喫した。このルートのような瘠せ尾根の登山は、単独行では危険なのでそろそろ方針転換しなければと思う。最後に白馬駅でまた香港組と会った、不思議な縁でした。



〔遠見尾根から右の五竜岳から鹿島槍への山並〕